

山形のみちづくり評議会（第 1 回）
議事概要

1. 開催日時

平成 23 年 6 月 14 日（火） 14:00～16:00

2. 出席委員

柴田会長、貝山委員、福田委員、亀森委員、宮原委員、池田委員、小山委員、
豊島委員、前内委員、鹿野委員

3. 議事

- 1) 山形県道路中期計画の概要および進捗状況
- 2) 道路の課題・役割について（東日本大震災を受けて）
- 3) 事故危険区間対策事業について

4. 議事概要

○山形県道路中期計画の概要および進捗状況、道路の課題・役割について（東日本大震災を受けて）について事務局より説明を行った。

- ・高速道路・地域高規格道路の整備について
- ・災害時の代替ルートの確保について
- ・災害に強い道路について
- ・国、県、市町村の連携のあり方

などについて意見をいただいた。

○事故危険区間対策事業について事務局より説明を行った。

- ・事故対策の方法などについて意見をいただき、今年度の取組みについて了承された。

5. 主な意見

【みちづくりの基本方針】

[1 高速道路・地域高規格道路の整備中区間の供用と未着手区間の着手]

- ミッシングリンクの解消ということが大切である。
- 東北道の代替ルートとして東北中央道を位置付けた場合、重要な使命を持つことになるが、残念ながら山形県内では部分的にしか供用されていない。
- 月山ルート（国道 112 号）の代替ルートとして新庄、酒田間のルートをきちんと整備していく必要があると思っている。
- 高速道路が使えなくても、使える道路があったということで、すごく助かったということがあった。（山形県から宮城県への道路）
- 格子状のネットワーク（縦軸、横軸の幹線道路）はきちっとつくっていただき

たい。

- 以前に比べると、東西方向の時間的距離もよくなっているが、それでもまだ不十分である。
- 東西方向の幹線について、地形的な本数の少なさを何でカバーするか
- スピードが上げられる道路というよりも、地域の生活を守るための幹線道路という位置づけで横の道路を考えて行く必要がある。

[2 高速道路ネットワーク形成と連携した I C アクセス道路等の整備推進]

- 酒田港に物が着けば港で完結するわけではなく、それから目的地までつなぐ道路が必ず必要である。

[4 生活幹線道路ネットワークの整備推進]

- 中山間地域の人たちの移動をどう考えていくのか、マイカーを利用できない世代の移動をどう考えていくか、公共交通も考えていく必要がある。

[6 人に優しい道路空間の整備推進]

- 県は指導的立場に立って生活道路というものの整備をリードするべきである。

[8 災害と雪に強い道路空間の整備推進]

- 基本的には地震や洪水、地すべりとかに対して抵抗力の大きいきちんとした道路を作るというのが重要である。
- 自然災害があればみんな近寄りたがらない。産業振興や、観光面からもいかに安全かというイメージを持ってもらえる道路管理が大切である。

[9 予防保全型維持管理による道路施設の長寿命化]

- 財政逼迫の中で、道路の維持管理が非常におろそかになる恐れがないかを懸念している。
- 道路工事とその後の維持管理も含めた一括発注の方法など、安全性を維持するための様々な手法も考えていく必要がある。
- 少しでも安全度の高い、できるだけお金を掛けない維持管理の手法を考えていく必要がある。

【みちづくりの考え方（施策の進め方）】

[道路の役割について]

- 震災を受け、道路の役割というものをもう一度きちんと考え直す必要がある
- 10 年たってからでないと開通しないということでは時代の変化にも対応できないので、できるだけ早く作って、次を作るときには新しい状況を加味して作るというように、集中的な取り組みが必要である。

[国、県、市町村の連携について]

- 安全安心というとき、県道や市町村道での一体感を持たせる工夫の必要がある。
- 国と都道府県と市町村の連携をいかにうまくやっていくかという工夫が必要ではないか。

[情報提供について]

- 自然災害で、道路が通行止めとなる際に、代替路のルートやその所要時間、混雑予測等の情報提供を、通行者に提供できるような仕組みがあってもよい。
- 日常のちょっとしたところでも、渋滞が発生時に別ルートへ誘導するような情報の提供みたいなものがあるといいのではないか。
- 情報提供による安全安心のレベルアップを考えていく必要がある。

【事故危険区間について】

- 対策を選ぶときには、一般的な方法ばかりでなく、新しいものにも挑戦して効果を上げる努力も必要である。
- 沿道出入りに関して、右折での出入りを禁じるというようなことはできないか。

以上